

ORD特別講演会	1~2
第二回知財セミナー	2~3
第3回企画広報部会	3
製品開発委員会日帰り研修	4~5
技術促進委員会一泊研修	6~7
第35回異業種交流マッチング展レポート	8
ORDからのお知らせ	8

編集：企画広報部会 事務局：〒538-0044 大阪市鶴見区放出東1丁目10番25号(奥野製薬工業(株) 企画開発部内)
TEL 06-6961-0886 FAX 06-6963-0740 E-mail info@ord.gr.jp URL http://www.ord.gr.jp

ORD 特別講演会

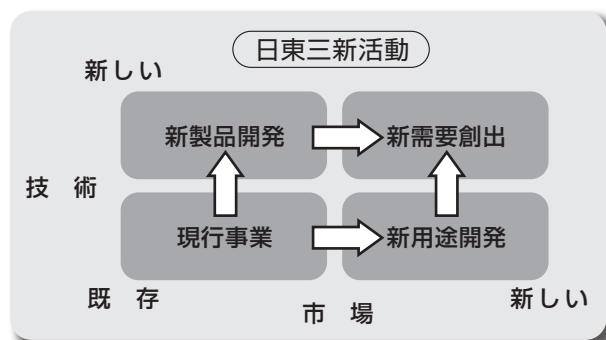
平成22年11月5日マイドーム大阪において、日東電工株式会社 執行役員副CTO全社技術部門長兼基幹技術センター長の表 利彦氏をお招きして、今年度第1回目の特別講演会を開催致しました。当日70名強におよぶ多数の皆様にご参加頂き「日東電工におけるR&D戦略とその展望」技術戦略とリーダー育成などに関してサステナブル企業を目指して～過去から学ぶ選択と集中～と題してご講演を賜りました。

○創業期

1918年創業時のビニルテープの特徴を活かし、磁気テープ・乾電池技術と進み、磁気テープの延長上にあるテープレコーダーの失敗により、乾電池技術を売却されその資金で生産材に特化することで、両面接着テープが生まれ現在の日東電工様の原型が生まれました。

○R&D戦略

日東電工様のR&D戦略は1954年制定された日東三新活動を現在もお引き続き踏襲されています。



技術は基幹技術と要素技術に分類

※基幹技術…組織横断的に容易に活用できる知識、集約できている技術

※要素技術…特定事業・製品にのみ知識が集約・活用されている技術

R&D戦略は、将来の基幹技術を育成すること
も一つのミッションである



○収益

収益に貢献した新事業創出には時間がかかっている

着想から開発着手まで 6.1年

開発着手から事業化まで 7.1年

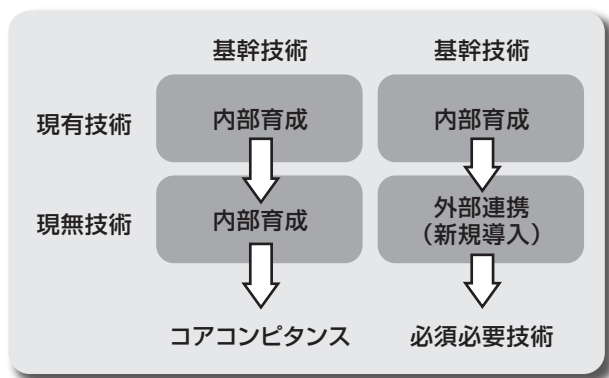
事業化から事業ピークまで 20年以上

そのために

従来品の開発・用途目標以外に、新技術で別用途を求められる性能を考えることで従来品の開発・用途目標を達成させること、すなわち収益の最大化が可能となる。

今後の開発の方向性は、上限規格品から無限規格品、すなわち現在完成された製品に技術付与していくことによりまだ完成されていない環境技術・エネルギー創出・省エネとなる。(照明・太陽電池・電池・淡水化)

○外部連携の考え



原理原則であり、これは物理学の考え方

○リーダー育成

6ヶ月に1回、経営陣向けの発表の場を設けプロフィットを説明し、専門家でない営業担当者にもわかる様に説明し、営業担当者も売り方を修得できることで、リーダーは「人・物・金」を手に入れ、開発を維持することを可能にしており自ずと

リーダーは6ヶ月に1回の発表説明会において自身を磨くことが可能となる。

記載以外にも具体的に詳細を説明して頂き、研究開発型企业には大変参考にさせて頂く事案が多く、あつという間の1時間半の講演となりました。



左：日東電工(株) 表氏
右：企画広報部長 松浦氏

表様、大変貴重なお話し、有難うございました。

その後の懇親会では、表様にもご参加頂き有意義なひと時を過ごすことができました。

松浦勲(記)/
ラミネート工業(株)

第2回知財セミナー



去る9月7日(火)、奥野製薬工業株式会社本社に於いて、サン・グループ代表の藤本昇特許事務所 所長 弁理士 藤本昇先生をお迎えして、

ORD全体行事として知財セミナーを開催させていただきました。このセミナーは今年3月に同じく藤本先生をお迎えして開催させていただいたところ大変好評で、また内容も深く広範囲で1回のセミナーだけで消化しきれない部分もあり、ORD全体行事としてその後シリーズ化することとなり、第2回目のセミナーを開催いたしました。当日は残暑厳しい中にもかかわらず40名超のご参加を賜りました。

セミナーの主題として「研究開発から製品開発販売迄に注意すべき知財の諸問題」ということで、①発

明の捉え方、②保護方法、③模倣対策についてご講演して頂きました。①発明の捉え方については、まず提案を出させること。普段している当たり前のことがアイデアである。アイデアは点ではなく線や面で捉えること。発明(特許)は製品ではなく思想である。などのお話がありました。②保護方法については、共同研究開発型の場合、秘密保持契約だけではなく、権利の帰属と成果の帰属についても予め共同研究開発契約を結び、明確にしておくこと。研究開発工程で、社内証拠(議事録、図面、試作品)、社外証拠(外注



委託書、発注書、納品書、図面、請求書)を残すこと。万が一、訴訟になった時にどちらが主体性を持っていたか、どちらが早くから開発していたかがポイントになるとのお話がありました。③模倣対策については、特許権(もしくは意匠権)とその保護範囲についての注意がありました。特に特許申請時の保護範囲については注意が必要で、文言や数値等を限定(具体的)すると理解し易く特許申請が受理され易くなるが、そうすると少し形状や数値を変更するだけで模倣され、良くないとお話がありました。

2時間余りのご講演時間にもかかわらず、ご講演内容が藤本先生の体験に基づくお話なので、大変説得力があり、改めて大企業だけではなく我々中小企業にとりましても「知財」というものについて考えさせられたご講演でした。



セミナー終了後の懇親会におきましても、藤本先生に具体的な相談をされている方もおられ、有意義なセミナーとなりました。

藤本先生にはご多忙の中、ORDの為に貴重なご講演を賜りましたことを本紙面をお借りして改めて御礼申し上げます。

伊場田晶(記)/旭テック(株)

第3回企画広報部会

第3回企画広報部会は、普段の会議室を抜け出して8月23日に和泉市テクノステージJSTイノベーションプラザで行いました。

お昼一番に泉北高速鉄道和泉中央駅に集合し、二台の車に分乗してテクノステージへ。

炎天下の下、外で私たちの到着を待って頂いた西脇社長と合流し早速イノベーションプラザへ。中ではテクノステージまちづくり協議会の阪口会長様、和泉市都市産業部森内次長様の出迎えを受け、小1時間のテクノステージの説明を受けました。その後ステージ内の「大阪府立南大阪高等職業技術専門学校」「大阪コートロップ(株)」の二つを見学することが出来ました。

その後、JSTイノベーションプラザの会議室をお借りして定例の企画広報部会を行いました。

今回は、当会会員のテクノロール(株)西脇社長のお声掛けで実現しました。テクノロール(株)様は、和泉市がテクノステージを開発した直後から入居され現在115社からなる「まちづくり協議会」の中心会社として活躍されています。

佐藤晴央(記)/事務局



ORD製品開発委員会・2010年第3回例会

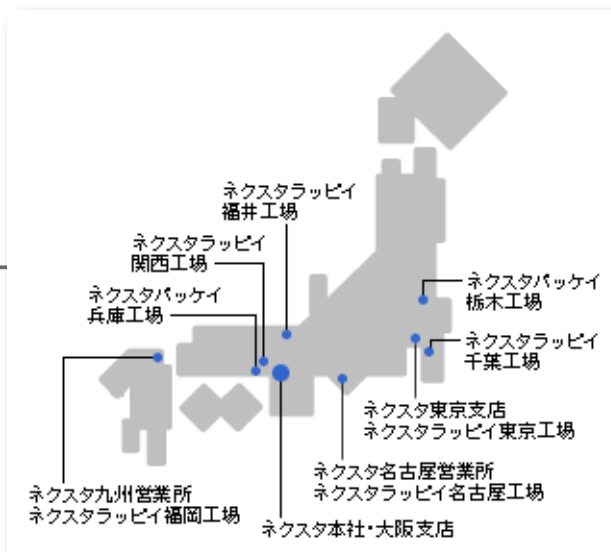
日帰り研修 ネクスタラッピイ(株)関西工場見学

見 学 日 時：2010(平22)年9月15日(水)
 工 場 名：ネクスタラッピイ(株) 関西工場
 所 在 地：〒669-1339
 兵庫県三田市テクノパーク2-2
 懇親会会場：がんこ 三田の里
 所 要 時 間：13:00～21:00

はじめに

今回は当委員会の最古参会員でおられる「ネクスタ株式会社」岡崎社長の、兵庫県三田市にある同社新工場を見学させて頂いた。製品開発委員会からは岡崎社長を含めて9名、他の委員会から5名と佐藤事務局長を含めて、計15名のORD会員が、ネクスタの新工場見学会に参加した。

見学と研修の後は、工場の近くにある「がんこ 三田の里」で懇親会をひらいた。



ネクスタラッピイ工場概要

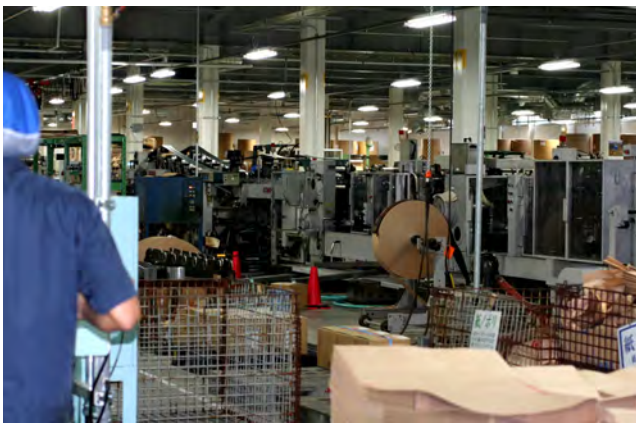
ネクスタ(株)の事業所は右上の図に示すように全国に多く展開されている。今回の主訪問先はネクスタラッピイ関西工場で当社の最新工場だそうである。当社へは10数年前にも工場見学をさせて頂いたが、その工場はネクスタラッピイ関西工場と同じ敷地にある。今回の見学先に隣接してる。



ネクスタラッピイ(株) 関西工場第一工場棟前の記念写真。参加者が多く活気のある見学会になった。

現在はネクスタパッケイ(株)兵庫三田工場となっている。今回はついでにパッケイ工場も再度見学してきた。10数年前は今ほどの事業所は無かった。二十年以上も続く日本の不況の中で、どのようにしてこれほど発展してきたのか、岡崎社長の経営手腕の秘密を探りたい。

工場見学と説明会



始めに同工場の会議室で、岡崎社長、ネクスタラッピイ(株)関西工場の小田工場長、ネクスタパッケイ(株)兵庫三田工場の上田工場長から工場の概要をプロジェクターを使って説明を受け、その後全員で工場を見学した。

上の現場写真は米袋などを作る現場で、ネクスタとしては最もクラシックな製品である。同工場にはクリーンルームがあって、その中で作る最新の製袋機が並んでいるコーナーもある。そこには超音波ウェブクリ



写真右端:ネクスタ(株)岡崎社長



写真右端:藤川製品開発委員会委員長、写真左端:佐藤事務局長。

ーナーやライン上で目視では見付けることのできない異物などを連続検知する欠点検知器なども備わっていた。岡崎社長からは自由に写真を撮っても良いとお許しを得たが、撮影は遠慮した。ネクスタはほとんど輸出しておらず、国内完結型の業態なので今の厳しい円高の影響はほとんど受けていない羨ましい企業である。価格競争の課題は得意先に製品だけを販売するのではなく、得意先が必要とする総合的サービスを引受けて、囲い込みを計っているそうである。この辺が不況下においてなお躍進を続ける秘訣であろうか。



写真左:ラッピイ工場の小田工場長、写真右:パッケイ工場の上田工場長。

懇親会

長時間の研修と見学の後は、工場近くにあるお屋敷風料亭の「がんこ三田の里」で、懇親会を楽しんだ。

技術促進委員会「一泊研修」レポート

●日 時：2010年10月22日(金)～23日(土)

●場 所：ヤマハ(株)豊岡工場、中部国際空港、あいち臨空新エネルギー実証エリア

今年の一泊研修は、中身の濃い研修会となりました。秋空の中、総勢13名にて大阪駅前よりバスで浜松方面に出発し、初日にヤマハ(株)豊岡工場様を訪問し、奥三河の湯谷温泉に宿泊、2日目に中部国際空港の滑走見学コースを体験後、あいち臨空新エネルギー実証エリア様を訪問いたしました。

ヤマハ(株)豊岡工場様は、1970年より管楽器の量産と半導体のR&D及び営業をされております。生産されている管楽器はトランペット、サクソフォン、トロンボー



ヤマハ(株)豊岡工場

ン、ホルン等の我々のなじみ深いものばかりで、いかにもヤマハといった趣です。半導体に関しては、音楽ミキサー等の周辺機器や電子ピアノ向けから発展したとのことです。なお、半導体の量産は鹿児島工場で行っており、豊岡工場ではR&Dと営業のみをされているとのことです。最初にヤマハ(株)様の会社紹介のビデオを見た後、管楽器の量産工場内を案内いただきました。

まず、その工程の多さとそれを製造スタッフの方々から丹念に製造していることに驚き、同時に楽器の複雑な形状ややわらかい音色は、職人技に支えられているのだと改めて実感しました。また、お話を聞いていると製造スタッフの方々は仕事にプライドを持っておられ

る方や音楽好きの方が多いように思われました。まだまだ職人芸が活かされている製造現場のように見受けられました。

その後、天竜川を遡り、奥三河の湯谷温泉郷にて一泊しました。皆、温泉とおいしい料理に舌鼓を打ちながら、長距離バスの疲れを癒したのは言うまでもありません。



湯谷温泉

2日目は、最初に中部国際空港の滑走見学コースに参加しました。これは、普段は関係者しか入れないエリアを空港スタッフに案内していただく特別なツアーです。団体バス利用者のみ対象で、申し込み時と当日の見学前に見学者の身分証明はもちろん、事前にバスの車検証等も必要でした。当日、案内していただいた女性のスタッフとは別に保安員も随行し、バスの前後には先導車がつき、見学ツアーは物々しくスタートしました。

見学コースは、各施設を廻った後、滑走路の外周を1時間ほど掛けて廻るもので、メインイベントは滑走路の中央付近にてバスより下車し、真横から飛行機が離陸するところをたった数百メートルほどしか離れてい



中部国際空港

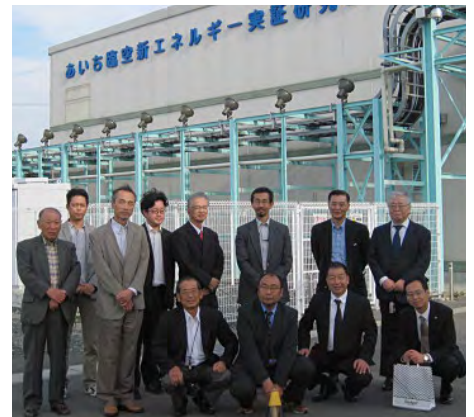
ないところから見学できるというものです。皆、自慢のカメラを持参し、写真を撮りまくっておりました。案内していただいたスタッフ方も我々の反応がかなりマニア寄り(笑)だったのか、驚きながらもノリノリの対応をしていただき、楽しい時間をすごしました。



中部国際空港

また、次の見学先のあいち臨空新エネルギー実証エリア訪問の時間調整のため、空港内にて有名な展望風呂を堪能いたしました。

あいち臨空新エネルギー実証エリアは、愛知県の産業労働部が中心となって愛知県の新エネルギーに携わる企業に呼びかけ



あいち臨空新エネルギー実証エリア

実際に各種のエネルギー設備を設置し、その実効成果を実地検証するという研究機関です。各種発電装置や省エネルギー商品は数多くありますが、カタログに記載されているものはメーカー発表による理論値や実験値であり、実際に我々が購入、設置した場合、効果があるのかは非常に興味深いところです。

検証されている設備としては、風力発電装置、シリコン型太陽光発電システム、集光型太陽光発電プラント、家庭用燃料電池(エネファーム)、NaS電池、バイオマススターリングエンジンがありました。日頃、よく聞く設備名ばかりですが、改めてその原理、仕組みを理解でき、大変勉強になりました。残念ながら、当実証エリアによる検証値についての言及はあまりありませんでしたが、こういった第三者機関によるエネルギーの実効効果の検証については、今後、ますます重要になってくると考えられます。

最後に、お忙しい中、ヤマハ

(株)豊岡工場 剣持様、あ

いち臨空新エ

ネルギー実証エリア 榊原様をはじめ、ご対応していただきました皆々様に感謝いたしますと共に、ますますのご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

伊場田晶(記)/旭テック(株)



第35回異業種交流マッチング展レポート

第35回事業化交流マッチング総合展

2010年11月10日～11日



第35回事業化交流マッチング総合展

今年もマイドームおおさかにてORDが加入しているの大阪府異業種グループ交流促進協議会主催の「第35回事業化交流マッチング総合展」が開催されました。この展示会には、メンバーの(株)友電舎、サンユレック(株)「中小ものづくりの高度化法事業関連」の二社が出展。



(株)友電舎(マッチング展)



サンユレック(株)(マッチング展)



テクノメッセ東大阪2010/11/16

今回は景気の回復感からか多数の方の来場風景が見受けられ、2日間で一万人以上の人出が見込まれています。

さらに今年は、近畿大学が「近畿大学リエゾンセンター研究成果・技術発表会」を開催し、様々な研究成果が発表されておられました。

マグロの解体実演もトロが食べ放題でした。

なお、当会は、「近畿大学大学院東大阪モノづくりイノベーションプログラム」の外部審査委員を引き受けております。

(事務局 佐藤が出席)

同時開催の東大阪商工会議所主催の「テクノメッセ東大阪2010」では、当会から大阪真空化学(株)、山本光学(株)の二社が出展されました。



大阪真空化学(テクノメッセ)



山本光学(株)(テクノメッセ)



近畿大学リエゾンセンター研究成果・技術発表会

ORDからのお知らせ

第三回「ORD知財セミナー」

藤本昇弁理士による「ORD知財セミナー」の続編のセミナー開催が決まりました。



日程 平成22年12月2日(木)15:00～
場所 奥野製薬工業(株)4F 会議室
演題 研究開発と特許情報の活用事例

技術促進委員会例会の日程が決まりました。

日程 平成22年12月7日(火)14:30
JR 高槻駅集合
場所 JT 生命誌研究館(高槻市)
内容 生命の原点を考えての見学及び館長の講話
その後、懇親会(忘年会)
※高槻市モノづくり交流会と合同開催

製品開発委員会例会の日程が決まりました

日程 平成22年12月15日(水)17:00～
場所 正弁丹吾亭
内容 第5回例会
その後、懇親会(忘年会)